



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三二四号〕

ぼうしゆ
芒種

六月五日

海女の休漁

新型コロナウイルスで、海女さんも困っていると聞きました。

本来なら、三月から始まったアワビ漁が盛んに行われている時期ですが、休漁している人も多いそうです。それはなぜなのか、理由を尋ねてみると、アワビの浜値が安いからといいます。

海女たちは、漁で捕れた貝類を所属する漁協の市場へ持っていきます。そこで個別に重さを測り、ミキロいくらミで収入を得ます。それが浜値です。とくにアワビは浜値が高いので、海女たちはアワビを真っ先に狙うのです。

以前、魚市場で漁から上がった海女たちがまだ濡れたウエットスーツを着たまま、貝類が入った網を一人ずつ、測っているところに居合わせることがありました。その賑やかなこと。海女さんたちは誰が、どれほどアワビやサザエが捕ったのか、言い合っていました。

今の魚市場にはそんな活気もないことでしょう。浜値が安いから休漁する海女たち。「あの浜値では、アワビがかわいそう」といいます。海女たちは収入が絶たれても、浜値の下ちたアワビを捕ることはしないのです。アワビへの敬意と、アワビ漁への誇りがそこにあるように感じました。

志摩半島のアワビの減少は、厳しいものになっています。昭和六十年代には年間四五〇トン前後の水揚げがありましたが、近年では五〇〜一〇〇トンで推移しています。二十一年間で五分の一に落ち込んでいるのです。

日本遺産「海女文化」も、新型コロナウイルス感染の影響を受けています。

文 千種清美

